

# IBM Rational CM Synergy を設定して SimDiff 4 を使用するには

---

## 目次

はじめに.....	2
Simulink モデルファイルタイプを設定する .....	2
[ccm.properties] を設定する.....	3
SimDiff 4 を比較ツールとして設定する.....	3
SimDiff 4 をマージツールとして設定する .....	3

## 操作手順

CM Synergy で SimDiff 4 を使用するにあたって、全体的に必要な設定処理は、以下の通りです。

1. CM Synergy ファイルタイプを Simulink モデルのファイルに設定する (.mdl ファイル)
2. [ccm.properties] を設定し、Simulink モデルファイルタイプの比較またはマージツールとして SimDiff 4 を使用する。

これらの操作手順は、後続のセクションにてご覧いただけます。

注意 - この操作手順は、CM Synergy バージョン 7.2 を対象としていますので、ご注意ください。他のバージョンでは操作が多少異なる可能性があります。特に、[ccm typedef] コマンドとそのオプションに留意してください。

### Simulink モデルファイルタイプを設定する

CM Synergy では、「ファイルタイプ」を作成して、タイプ特有の動作を実行することが可能です。SimDiff 4 を Simulink モデルファイルの差分/マージツールとして使用するには、あらかじめ CM Synergy で Simulink モデルファイルタイプを設定する必要があります。ファイルタイプのプロパティに対する、弊社の推奨値は以下の通りです。

プロパティ	推奨値	詳細
name	mdl	
description	Simulink model file	
super_type	binary	mdl ファイルは主に ASCII 書式でエンコードされているが、バイナリデータが含まれている可能性があるため、弊社では supertype として [ascii] ではなく [binary] を推奨。
match expression	^.*\.mdl\$	ファイル拡張子が [.mdl] の全ファイルと一致する正規表現。必要に応じて変更できる。正規表現に一致するファイルには、作成時にデフォルトでこのタイプを使用する。GUI の [Modify Migrate Rules] オプションから指定することも可能。

#### 注意

\* [cmm\_admin] のユーザのみ mdl タイプを作成できます。

\* SLX ファイルフォーマットに対応する場合、[mdl] を [slx] に変更してください

ファイルタイプの作成方法については、CM Synergy のサイトをご覧ください。

[http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/synhelp/v7m2r0/topic/com.ibm.rational.synergy.manage.doc/topics/sc\\_c\\_h\\_work\\_with\\_types.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/synhelp/v7m2r0/topic/com.ibm.rational.synergy.manage.doc/topics/sc_c_h_work_with_types.html)

正規表現については、以下のサイトをご覧ください。

[http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/synhelp/v7m2r0/topic/com.ibm.rational.synergy.reference.doc/topics/sc\\_r\\_h\\_regular\\_expressions\\_gfo.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/synhelp/v7m2r0/topic/com.ibm.rational.synergy.reference.doc/topics/sc_r_h_regular_expressions_gfo.html)

### **[ccm.properties] を設定する**

次のセクションでは、ccm.properties を設定して SimDiff 4 を差分/マージツールとして使用する方法をご紹介します。操作説明では、ファイルタイプが「mdl」と指定されていることを想定しています。ファイルタイプが異なる場合には、ご指定のファイルタイプ名と置き換えてください。また、SimDiff 4 のインストール時に、デフォルトのインストールフォルダが指定されていることを想定しています。SimDiff 4 のインストール先が異なる場合には、該当するフォルダと置き換えてください。

注意 - 最大、1 種類の比較ツールと 1 種類のマージツールを、ファイルタイプに設定することが可能です。設定可能な組み合わせは、以下の通りです。

- SimDiff を比較ツールとしてのみ設定する
- SimDiff を比較とマージツールとして設定する

### **SimDiff 4 を比較ツールとして設定する**

以下の文字列を [ccm.properties] に追加してください。

```
windows.tool.compare.mdl = "c:\\Program  
Files\\EnSoft\\SimDiff4\\simdiff4.exe" -l "%file1" -r "%file2"
```

### **SimDiff 4 をマージツールとして設定する**

以下の文字列を [ccm.properties] に追加してください。

```
windows.tool.merge.mdl = "c:\\Program Files\\EnSoft\\SimDiff4\\simdiff4.exe"  
-b "%ancestor" -l "%file1" -r "%file2" -o "%outfile"
```